

2019年4月1日
日本銀行北九州支店

北九州・京築地区の金融経済概況

(2019年4月1日)

(本件に関するお問い合わせ先)

日本銀行北九州支店 Tel 093-541-9112

当資料は当店ホームページにも掲載しています。

(<http://www3.boj.or.jp/kitakyushu/gaikyo/subgai.htm>)



1. 総論

北九州・京築地区の経済は、緩やかに拡大しているものの、そのペースは鈍化している。3月短観（全産業）をみると、企業の業況判断は、製造業を中心に悪化した（前回+15→足もと+6）。

最終需要の動向をみると、公共投資は、弱含んでいる。輸出は、弱めの動きとなっている。設備投資は、製造業を中心に増加している。個人消費は、振れを伴いながら、緩やかに持ち直している。住宅投資は、貸家を中心に弱い動きとなっている。

こうした中で、生産は、一部で弱めの動きがみられるものの、全体として高水準で推移している。雇用情勢は、引き続き改善している。

【前回との比較】

項目	前回	今回
景気判断	緩やかに拡大している。	<u>緩やかに拡大しているものの、そのペースは鈍化している。</u>
需要項目	公共投資	弱含んでいる。
	輸出	<u>全体として高水準で推移している。</u> 弱めの動きとなっている。
	設備投資	堅調な収益動向を背景とした能力増強の動きなどがみられることから、製造業を中心に増加している。
	個人消費	振れを伴いながら、緩やかに持ち直している。
	住宅投資	貸家を中心に弱い動きとなっている。
生産	全体として高水準で推移している。	<u>一部で弱めの動きがみられるものの、全体として高水準で推移している。</u>
雇用	引き続き改善している。	引き続き改善している。

2. 需要項目別動向

公共投資は、弱含んでいる。

2月の公共工事請負金額をみると、市町村、国等の発注分が増加したことから、前年比プラスとなった。

輸出は、弱めの動きとなっている。

設備投資は、製造業を中心に増加している。

3月短観における18年度の設備投資は、前年を大幅に上回る見込み。19年度の設備投資は、前年を下回る計画となっている。

個人消費は、振れを伴いながら、緩やかに持ち直している。

大型小売店（百貨店・スーパー・複合商業施設）売上高や量販店（ディスカウントストア・ホームセンター等）売上高は、鍋物などの冬物商材が伸び悩んだものの、一部先の閉店セール効果がみられた中、化粧品などが堅調に推移している。

乗用車販売は、新型車投入効果などから増加している。

住宅投資は、貸家を中心に弱い動きとなっている。
2月の新設住宅着工戸数は、貸家を中心に前年比プラスとなった。

3. 生産

生産は、一部で弱めの動きがみられるものの、全体として高水準で推移している。

▽業種別生産動向

鉄鋼	高炉	海外向けの一部が弱含んでいるものの、生産は高水準で推移している。
	電炉	建設向けを中心に、生産は高水準で推移している。
化学		アジア向けを中心に、生産は増加基調にある。
セメント		首都圏向けを中心に、生産は増加基調にある。
住設機器		リフォーム向けを中心に、生産は高水準で推移している。
電気機械		半導体向けを中心に、生産水準は切り下がっている。
電子部品		半導体向けを中心に、生産水準は切り下がっている。
自動車		海外向けの一部が弱含んでいるものの、生産は高水準で推移している。

4. 雇用

雇用情勢は、引き続き改善している。
2月の有効求人倍率は、1.52倍（前年比▲0.06ポイント）と、前年を下回った。

5. 物価

2月の消費者物価指数（北九州市の生鮮食品を除く総合ベース）は、前年比プラス（+0.7%）となった。

6. 企業倒産

2月の企業倒産（負債総額10百万円以上）をみると、件数は6件（前年同月2件）、負債総額は335百万円（同496百万円）となった。

7. 金融情勢

2月末の実質預金は、前年比2.7%増となった（前月同2.9%増）。貸出は、前年比3.1%増となった（前月同3.2%増）。

この間、貸出約定平均金利（都銀・地銀・地銀Ⅱ平均、総合<ストック・ベース>）は、1.157%となった（前月1.157%）。

以 上